

智頭町第7次総合計画進行管理結果
令和元（2019）年度事業

令和2（2020）年7月

企画課

1 目的

第7次智頭町総合計画を推進するため、総合計画に記載されている基本計画について進行管理を適切に行うための仕組みを構築し、それぞれの所管課においても計画の進捗状況を管理する。

また、令和元（2019）年7月1日に内閣府から「SDGs 未来都市」の選定を受け、今後の進捗及び評価については、SDGsの指標も加えて行うことで、第7次総合計画の将来像とSDGsの理念に近づいているかを可視化することが可能となる。

2 進捗状況の検証

各所管課は、年度末に事業それぞれにPDCAサイクルマネジメントを実践するため、進行管理検証シートを作成し、内部評価を実施する。

3 進行管理検証シートの作成

- ・各課の事業それぞれに進行管理検証シートを作成及び評価
（※検証結果はホームページで公表）

4 評価指標

評価については、第7次智頭町総合計画の将来像を達成しているかについて評価することとするが、個別の事業計画において目標値を設定している場合はその目標値への達成度に鑑み、進行管理検証シートの《評価》欄に下記のとおり、A～Eを選択した。評価内容については、各課各事業において検証結果を記述した。

「将来像：一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ」

評価	内 容	達成度合
A	「将来像」に十分に達成している	100
B	「将来像」にかなり達成している	75
C	「将来像」に達成しつつある	50
D	「将来像」にあまり達成していない	25
E	「将来像」に達成していない	0

1 森の恵みを活かしたまちづくり

森の恵みを活かしたまちづくりの全体的な評価としては、B「かなり達成している事業」が33事業中12事業で全体の36%となっており、昨年度と比較して12ポイント上昇している。しかし、前年度にA「十分に達成している事業」であった1事業の評価が下がっており、全体の達成の進捗度は鈍化していることが見受けられる。

本テーマでは、仕事分野での事業が多く、ここの達成度が前年度より伸びていることは評価できる。

令和元年度は第1期総合戦略事業の最終年度で、本テーマで重点事業に位置づけながら達成度が低い「疎開と癒やしの郷」は、ストレス社会において森林資源を活用した本町の強みを活かした事業であるため、事業名が変わっても関連する事業は目的達成に向けて継承していく必要がある。

なお、「森林環境の保全整備（竹林の整備・拡大防止等）」は、事業完了により廃止し、地域資源を活かし、持続可能な事業を立ち上げる民間事業者等への支援として新たに「地域経済循環創造事業」を追加した。

林業分野では、令和元年度までの総合戦略事業「林業の郷」で本町の主要産業である林業への関心度の向上や、新たな担い手の確保を目指しており、その目的達成に近づいた。また、「低コスト林業の推進」では、平成30年の豪雨災害の教訓を活かし、より壊れにくい作業道開設の意識が高まっている中、概ね計画どおりであった。「有害鳥獣対策」では、ちづDeer'sと猟友会の連携が良好で、搬入頭数が維持されている。ニホンジカの捕獲頭数も前年度と比較して減少しているため、一定程度の効果は現れている。

観光分野では、「智頭宿特産村の活性化」で、智頭宿特産村内に設置しているトイレの改修を実施したことにより、観光客がより快適に利用できる環境が整備された。

今年度、評価の下がった「中長期受入施設整備事業」は、本町の懸案でもある、滞留時間の確保のために宿泊場所の確保を目的としている本事業であるが、当該年度において、新規宿泊施設の整備ができていない。これは、行政だけでなく民間企業との連携が重要になってくるが、今後も官民連携による動きを活発化させる必要がある。

I 森の恵みを活かしたまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿なくらし		1			
仕事	受け継いだ仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる		9	16	2	
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境		2	3		

2 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり

安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくりの全体評価では、B「かなり達成している事業」が31事業中16事業で全体の52%となっており、昨年度と比較して19ポイント上昇している。本テーマにおいては、B「かなり達成している事業」の達成度の進捗がその他のテーマと比較してあまり進んでいない状況がうかがえる。また、D「あまり達成していない事業」が2事業あり、早急な改善を図る必要がある。

健康の17事業中4事業で達成度が上昇した。「乳幼児等保健相談事業の推進」や「乳児健康診査事業の推進」は、検診受診率は高い状況が続いている。また「特定健診・がん検診・各種健康教室・健康相談・家庭訪問の充実」では、糖尿病予防教室でOB会を立ち上げたことにより、参加者が増加している。また、健康相談の方法について個別を重視した指導に変更したことにより、人数は減少したが、より寄り添った相談が実施できた。今後も町民の健康増進に向けた取組の周知や受診勧奨を積極的に進め、安全・安心に暮らすためには他分野との連携を強化しながら、将来像達成のために更なる連携強化を図る必要がある。

「情報インフラの更新」では、設備導入して10年が経過する光通信網関係設備の更新において、活用方法や財源確保について積極的に検討を行った。また、「町民バスの更新」では、今後の地域公共交通の方向性などについて智頭町地域公共交通計画を策定し、今後実現に向けた具体的な行動の指針を示すことができた。「災害対策体制の確立」では、避難所運営マニュアルや国土強靱化地域計画を作成し、令和元年度の事業は計画どおり実行できた。しかしながら、新型コロナウイルスなど今後自然災害に限らず多様な災害に対応できる体制整備が急務となっている。

「医師確保対策の強化」では、B「かなり達成している事業」からC「達成しつつある事業」へ評価が下がった。これは、計画どおりの確保ができていなかったためであり、病院事業においては継続して医師確保を目指す必要がある。

Ⅱ 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿なくらし		6	11		
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境		6	6	2	

3 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり

子どもから大人まで学びと成長のまちづくりの全体評価では、B「かなり達成している事業」が35事業中15事業で全体の42%となっており、昨年度と比較して25ポイントと急激に上昇している。反面、D「あまり達成していない」では、昨年度1事業2%だったが2事業5%と昨年度と比較して3ポイント上昇している。

全体的な達成度が上昇し、順調に進捗していることが伺える。しかしながらE「達成していない事業」が増加しているため、事業検証をしっかりと行う必要がある。

具体的な事業を見てみると、B「かなり達成している事業」は、小中学校に関わる事業全般で、小中学校の環境が向上していることがうかがえる。今後は、授業でICT化が加速されると見込まれるので、その対応の取り組みを積極的に行う必要がある。

昨年、E「達成していない事業」であった智頭NEXTは、中学校との連携により、中学2年生を対象に実施し、百人委員会での企画提案ができたことで、事業の目的を達成に近づくことができた。

「国際感覚の醸成」では、日本と韓国の関係悪化のため、計画していた事業も実施できなかった。国同士の影響が大きく不可抗力ではあるが、評価としては下がっている。

本テーマは「教育」が大きな柱であり、このため智頭町教育ビジョンに沿った事業を展開し、基本理念である、智頭町を愛し、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和がとれ、「生きる力」を持つ子どもを学校・家庭・地域で育成の実現に近づける必要がある。理念達成のためには、本町の将来を担う「宝」である子ども達が自信に満ち溢れ、すべての町民が学びあえるための環境整備を今後も継続していくことが重要である。

あわせて、子どもたちに「誇り」をもてもらうために、コミュニティ機能の強化をはじめ、「おせっかい」の推進をより一層図り、みんなが幸せになるための努力を継続する必要がある。

Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
学び	生活の知恵から趣味や仕事まで、くらしを彩る学びを増やす		13	10	1	
仕事	受け継いできた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる		1	1		
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ		1	7	1	

4 地域や家族のつながりでつくるまちづくり

地域や家族でつながるまちづくりの全体評価では、A「十分に達成した事業」が36事業中2事業で全体の5%となり、昨年度より3ポイント上昇した。B「かなり達成している事業」が36事業中10事業で全体の27%となっており、前年度と変化はなく、D「あまり達成していない」では4事業で、昨年度より2ポイント下降している状況をみると、達成に向けて緩やかではあるが進捗しているが、4つの理念の中で進捗度が最も悪いため、各事業においてさらなる検証が必要である。

評価が上昇した「保護者のニーズに対応した特別保育の継続」は、事業の継続のために智頭病院との連携を図り、必要な人材確保及び配置を行ったことで、特別保育の充実を図り、多様な子育てニーズに対応し、保護者と就労支援と子どもの発達支援を保障することができた。また「買い物弱者のためのシステムづくり」は、制度の継続と見守りを強化するために制度設計を行った。「観光協会の機能強化」は、営業の強化だけでなく、運営強化を図るため移住定住相談窓口の設置や物販部門見直しを行い、来訪者に対する満足度の向上につながっている。

「子育て支援ネットワーク協議会の取り組みの推進」は、事務局が教育課から福祉課へ移管したことに伴い連携がスムーズにいかない場面もあり、今後の課題となっているため昨年度より評価を下げた。

達成度の評価に変化はないが、都市部住民とのつながりをつくり、地域経済の活性化を図るための「疎開保険事業」は加入者が減少している。本事業は第2期総合戦略でもテーマとして掲げる関係人口の増加に寄与する事業であり、新規加入者を増やすために積極的なプロモーション活動が必要である。

今回の検証において、多様な子育て環境の整備は目標の達成度に近づいていることがうかがえるが、まだまだ地域でつながる幅広い仲間づくりへ展開できていないことも改めて判明している。

本町を訪れていただく「交流人口」と、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」の増加へ向けた取り組みを継続し、そこからUターンやIターン等の移住者確保へつなげていくための事業をさらに強化していく必要がある。

Ⅳ 地域や家族のつながりでつくるまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
家族	一人ひとりの個性を活かしながら支え、つながる家族	2	7	12		
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ		2	6	2	
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境		1	2	2	